

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第165期第3四半期
(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 株式会社ニッピ

【英訳名】 Nippi, Incorporated

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊藤 隆 男

【本店の所在の場所】 東京都足立区千住緑町1丁目1番地1

【電話番号】 03(3888)5111(大代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 石井 英文

【最寄りの連絡場所】 東京都足立区千住緑町1丁目1番地1

【電話番号】 03(3888)5111(大代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 河村 桂 作

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第164期 第3四半期 連結累計期間	第165期 第3四半期 連結累計期間	第164期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	29,014	29,941	38,209
経常利益	(百万円)	1,639	1,623	1,671
四半期(当期)純利益	(百万円)	932	1,527	702
四半期包括利益又は 包括利益	(百万円)	773	2,023	712
純資産額	(百万円)	15,703	17,508	15,642
総資産額	(百万円)	61,953	62,140	60,590
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	82.62	135.40	62.24
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	24.73	27.54	25.18

回次		第164期 第3四半期 連結会計期間	第165期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり 四半期純利益金額	(円)	34.90	78.29

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第164期及び第165期第3四半期連結累計期間並びに第164期においては、潜在株式がないため潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は記載しておりません。
- 4 第164期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理をしております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、開業した日皮?原蛋白(唐山)有限公司を連結の範囲に含めており、株式会社N P 越谷加工は、平成23年12月28日に臨時株主総会を開催し、平成23年12月31日付で清算手続きを開始しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間に於ける我が国経済は、一部に東日本大震災からの復興に向けた動きが見え始め、やや景気の回復傾向が見えてきましたが、ギリシャから始まったユーロ不安がいまだ解消される見込みが見えず、先行きの見通しが立てにくい状態で推移いたしました。

このような経済情勢におきまして、当社グループは、東日本大震災による生産設備等への直接的な被害もなく、比較的順調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期に比べ926百万円増加し、29,941百万円(前年同四半期比3.2%増)となりました。

売上総利益は、389百万円増加し、7,317百万円(同5.6%増)となったものの、広告宣伝費や減価償却費の増加により営業利益は、48百万円減少し、1,907百万円(同2.5%減)となり、経常利益は、15百万円減少し、1,623百万円(同0.9%減)となりました。

なお、災害義援金などの特別損失の計上及び法人税の税率が引き下げられたことなどによる税金費用の調整をしたことにより四半期純利益は、595百万円増加し、1,527百万円(同63.9%増)となりました。

また、皮革関連事業の株式会社N P 越谷加工は、平成23年12月31日付で、皮革関連事業の株式会社ニッピ・フジタへ同社の事業を譲渡して清算手続きを開始いたしました。なお、この事業譲渡は、連結子会社間の事業集約であり連結経営成績に与える影響は軽微であります。

セグメントの状況につきましては以下の通りであります。

コラーゲン・ケーシング事業

コラーゲン・ケーシングは、世界的な天然腸の品薄状態により国内の需要が好調に推移しましたが、原料価格等の値上がりの影響がありました。一方、海外向けの売上は減少しております。

この結果、売上高は、6,213百万円(前年同期比3.0%減)、セグメント利益は、706百万円(同16.4%減(セグメント間内部取引の利益振替後の営業利益は、1,204百万円))となりました。

ゼラチン関連事業

ペプタイドは、健康食品用の需要拡大により順調に推移しました。ゼラチンは、カプセル用が堅調に推移しましたが、一部食品用が低迷いたしました。一方、円高による原価低減効果もあり全体では順調に推移しました。

この結果、売上高は、6,636百万円(同3.5%減)、セグメント利益は、709百万円(同22.7%増)となりました。

化粧品関連事業

コラーゲン化粧品は、積極的な販売広告活動により新規顧客の開拓を積極的に進め、コラーゲン化粧品及び「コラーゲン100」を中心とした健康食品がともに増加しました。

この結果、売上高は、3,537百万円(同7.1%増)、セグメント利益は、641百万円(同9.8%増(セグメント間内部利益振替後の営業利益は、700百万円))となりました。

皮革関連事業

自動車用革は、落ち込んでいた自動車部品会社の生産回復により前年並みとなりました。また、紳士・婦人用の靴用革は、国内の景気の持ち直し傾向から順調に推移しました。

この結果、売上高は、7,834百万円(同8.5%増)、セグメント利益は、153百万円(同55.0%増(セグメント間内部取引の利益振替後の営業利益は、188百万円))となりました。

賃貸・不動産事業

賃貸・不動産部門は、再開発を進めている東京都足立区及び大阪市浪速区の土地で引き続き暫定事業として賃貸事業を継続しております。

この結果、売上高は、325百万円(同9.4%減)、セグメント利益は、743百万円(同4.3%減(セグメント間内部取引の利益振替後の営業利益は、144百万円))となりました。

食品その他事業

有機農産物、肥料、イタリア食材の売上は、国内景気の持ち直し傾向により順調に推移しました。また、為替が円高傾向に推移したため原価低減効果がありました。一方、リンカー、化成品、B S E 検査キットなどは、ほぼ横ばいとなりました。

この結果、売上高は、5,393百万円(同11.3%増)、セグメント利益は、180百万円(同77.2%増(セグメント間内部利益振替後の営業利益は、188百万円))となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は62,140百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,550百万円の増加となりました。

資産の部

流動資産は、受取手形及び売掛金、現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末と比べ1,033百万円増加し、19,438百万円となりました。

固定資産は、東京都足立区の土地再開発及び新たに中国に設立した日皮?原蛋白(唐山)有限公司を連結対象会社としたことなどにより、有形固定資産が1,655百万円、無形固定資産が97百万円増加しました。また、同社に対する出資金を相殺消去したことなどにより投資その他資産が1,267百万円減少し、前連結会計年度末と比べて484百万円増加し、42,637百万円となりました。

負債の部

流動負債は、東京都足立区の土地再開発等による設備関係支払手形や建設未払金が減少したことにより、その他が減少しましたが、短期借入金などの増加により前連結会計年度末と比べ633百万円増加し、21,986百万円となりました。

固定負債は、預かり保証金等を返却したことにより、その他が減少しましたが、長期借入金が増加したことにより、前連結会計年度末と比べ948百万円減少し、22,646百万円となりました。

純資産の部

純資産は、税率変更により土地再評価差額金が増加し、四半期純利益により利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末と比べ1,865百万円増加し、17,508百万円となりました。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は65百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、著しい変動があった設備は、次のとおりです。

(新規)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械及び 車両	その他	土地 使用权		合計
日皮?原蛋白(唐山)有限公司	唐山工場 (中国河北省唐山市)	コラーゲン・ ケーシング 事業	石灰漬 工場	528	315	17	101	963	40 ()

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 土地使用权は、無形固定資産の「その他」に計上しております。
3 主要な生産品目の生産能力に影響を及ぼすものではありません。

前連結会計年度において計画中であった静岡県富士宮市のコラーゲン・ケーシング事業の選別・パッキング工場の新築工事につきましては、平成23年8月に完了いたしました。

なお、これに伴う生産能力への重要な影響はありません。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械及び 車両	その他	合計	
ニッピコラーゲン工業株	富士宮工場 (静岡県富士宮市)	コラーゲン・ ケーシング 事業	選別・ パッキング 工場	482	20	2	505	12 (24)

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 主要な生産品目の生産能力に影響を及ぼすものではありません。
3 従業員数欄の(外書)は臨時従業員の平均雇用人数であります。

また、当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,000,000	12,000,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式で単元株式数は1,000株であります。
計	12,000,000	12,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年12月31日		12,000		3,500		282

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 48,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,860,000	11,860	
単元未満株式	普通株式 92,000		
発行済株式総数	12,000,000		
総株主の議決権		11,860	

(注) 1 当社保有の自己株式には単元未満株式は含まれておりません。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ニッピ	足立区千住緑町1-1-1	48,000		48,000	0.4
計		48,000		48,000	0.4

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,004	4,190
受取手形及び売掛金	² 7,500	^{2, 4} 8,713
商品及び製品	4,390	4,318
仕掛品	807	987
原材料及び貯蔵品	324	358
未収還付法人税等	3	2
未収消費税等	192	86
繰延税金資産	489	448
その他	741	373
貸倒引当金	50	40
流動資産合計	18,404	19,438
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,903	7,589
機械装置及び運搬具（純額）	353	650
土地	24,943	24,943
建設仮勘定	4,737	5,463
リース資産（純額）	188	156
その他（純額）	152	130
有形固定資産合計	37,279	38,934
無形固定資産		
リース資産	56	58
その他	4	100
無形固定資産合計	61	159
投資その他の資産		
投資有価証券	2,770	2,887
長期貸付金	731	297
繰延税金資産	49	45
破産更生債権等	1,452	1,432
その他	1,345	446
投資損失引当金	27	39
貸倒引当金	1,511	1,527
投資その他の資産合計	4,810	3,543
固定資産合計	42,152	42,637
繰延資産	33	65
資産合計	60,590	62,140

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,047	4 7,698
短期借入金	3 9,460	3 10,666
1年内償還予定の社債	475	585
リース債務	62	66
未払法人税等	159	126
未払消費税等	21	77
賞与引当金	388	201
役員賞与引当金	47	29
繰延税金負債	0	-
その他	3,688	2,533
流動負債合計	21,353	21,986
固定負債		
社債	1,125	1,552
長期借入金	10,360	11,682
リース債務	194	160
退職給付引当金	1,707	1,700
役員退職慰労引当金	322	374
長期未払金	1,973	1,784
再評価に係る繰延税金負債	5,454	4,773
繰延税金負債	675	371
資産除去債務	5	5
その他	1,775	241
固定負債合計	23,594	22,646
負債合計	44,947	44,632
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,500	3,500
資本剰余金	1,153	1,153
利益剰余金	3,337	4,778
自己株式	224	225
株主資本合計	7,765	9,206
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	158	282
繰延ヘッジ損益	4	61
土地再評価差額金	7,656	8,348
為替換算調整勘定	4	98
その他の包括利益累計額合計	7,489	7,905
少数株主持分	387	396
純資産合計	15,642	17,508
負債純資産合計	60,590	62,140

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	29,014	29,941
売上原価	22,086	22,623
売上総利益	6,927	7,317
販売費及び一般管理費	4,971	5,410
営業利益	1,956	1,907
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	42	45
持分法による投資利益	100	232
その他	25	32
営業外収益合計	176	316
営業外費用		
支払利息	382	439
手形売却損	26	25
為替差損	31	27
開業費償却	-	34
その他	53	72
営業外費用合計	493	599
経常利益	1,639	1,623
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	37	0
会員権売却益	0	-
貸倒引当金戻入額	15	-
特別利益合計	54	0
特別損失		
固定資産除却損	9	2
固定資産売却損	0	-
投資有価証券売却損	0	0
貸倒損失	1	-
投資損失引当金繰入額	-	11
役員退職慰労金	14	9
土地開発関連費用	131	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1	-
災害による損失	-	34
その他	-	4
特別損失合計	158	62
税金等調整前四半期純利益	1,535	1,561
法人税、住民税及び事業税	170	218
法人税等調整額	414	212
法人税等合計	584	6
少数株主損益調整前四半期純利益	950	1,555
少数株主利益	18	27
四半期純利益	932	1,527

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	950	1,555
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	126	160
繰延ヘッジ損益	61	74
土地再評価差額金	-	681
為替換算調整勘定	7	24
持分法適用会社に対する持分相当額	18	45
その他の包括利益合計	177	468
四半期包括利益	773	2,023
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	770	2,014
少数株主に係る四半期包括利益	2	8

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、開業した日皮?原蛋白(唐山)有限公司を連結の範囲に含めております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。 (法人税率の変更等による影響) 平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以後開始する連結会計年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて主として以下のとおりとしております。 平成24年3月31日まで 40% 平成24年4月1日から平成27年3月31日 38% 平成27年4月1日以降 35% この税率の変更により法人税等調整額の金額が25百万円減少しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)																
<p>1 偶発債務</p> <p>連結子会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(株)ボーグ</td> <td style="text-align: right;">154百万円</td> </tr> <tr> <td>日皮(上海)貿易有限公司</td> <td style="text-align: right;">122 "</td> </tr> <tr> <td>従業員</td> <td style="text-align: right;">2 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">280 "</td> </tr> </table>	(株)ボーグ	154百万円	日皮(上海)貿易有限公司	122 "	従業員	2 "	計	280 "	<p>1 偶発債務</p> <p>連結子会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(株)ボーグ</td> <td style="text-align: right;">48百万円</td> </tr> <tr> <td>日皮(上海)貿易有限公司</td> <td style="text-align: right;">120 "</td> </tr> <tr> <td>従業員</td> <td style="text-align: right;">2 "</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">170 "</td> </tr> </table>	(株)ボーグ	48百万円	日皮(上海)貿易有限公司	120 "	従業員	2 "	計	170 "
(株)ボーグ	154百万円																
日皮(上海)貿易有限公司	122 "																
従業員	2 "																
計	280 "																
(株)ボーグ	48百万円																
日皮(上海)貿易有限公司	120 "																
従業員	2 "																
計	170 "																
<p>2 手形割引高及び裏書譲渡高</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">845百万円</td> </tr> <tr> <td>受取手形裏書譲渡高</td> <td style="text-align: right;">342百万円</td> </tr> </table>	受取手形割引高	845百万円	受取手形裏書譲渡高	342百万円	<p>2 手形割引高及び裏書譲渡高</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取手形割引高</td> <td style="text-align: right;">744百万円</td> </tr> <tr> <td>受取手形裏書譲渡高</td> <td style="text-align: right;">386百万円</td> </tr> </table>	受取手形割引高	744百万円	受取手形裏書譲渡高	386百万円								
受取手形割引高	845百万円																
受取手形裏書譲渡高	342百万円																
受取手形割引高	744百万円																
受取手形裏書譲渡高	386百万円																
<p>3 コミットメントライン契約</p> <p>運転資金の必要調達額の確保及び効率的資金運用を行うため取引銀行8行と短期コミットメントラインの設定契約を締結しております。</p> <p>当連結会計年度末におけるコミットメントラインに係る借入未実行残高等は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">5,400百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残額</td> <td style="text-align: right;">700 "</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">4,700 "</td> </tr> </table>	コミットメントラインの総額	5,400百万円	借入実行残額	700 "	差引額	4,700 "	<p>3 コミットメントライン契約</p> <p>運転資金の必要調達額の確保及び効率的資金運用を行うため取引銀行8行と短期コミットメントラインの設定契約を締結しております。</p> <p>当第3四半期連結会計期間末におけるコミットメントラインに係る借入未実行残高等は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">5,400百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残額</td> <td style="text-align: right;">"</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">5,400 "</td> </tr> </table>	コミットメントラインの総額	5,400百万円	借入実行残額	"	差引額	5,400 "				
コミットメントラインの総額	5,400百万円																
借入実行残額	700 "																
差引額	4,700 "																
コミットメントラインの総額	5,400百万円																
借入実行残額	"																
差引額	5,400 "																
	<p>4 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。</p> <p>なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">217百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手形</td> <td style="text-align: right;">147 "</td> </tr> </table>	受取手形	217百万円	支払手形	147 "												
受取手形	217百万円																
支払手形	147 "																

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1 土地開発関連費用 撤去処分費用等 131百万円	
	2 災害による損失の内訳
	東日本大震災災害義援金 31百万円
	地震災害による原状回復費用 0 "
	台風災害による原状回復費用 2 "
	計 34 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	483百万円	714百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	83	7	平成22年3月31日	平成22年6月25日

2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	83	7	平成23年3月31日	平成23年6月27日

2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期 連結損益 計算書 計上額
	コラーゲン ・ケージン グ事業	ゼラチン 関連事業	化粧品 関連事業	皮革 関連事業	賃貸・不 動産事業	食品その 他事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	6,407	6,880	3,303	7,219	359	4,844	29,014		29,014
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0				1,019		1,019	1,019	
計	6,407	6,880	3,303	7,219	1,378	4,844	30,033	1,019	29,014
セグメント利益	845	577	584	99	777	102	2,987	1,031	1,956

(注) 1 セグメント利益の調整額の区分は報告セグメントに含まれない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期 連結損益 計算書 計上額
	コラーゲン ・ケージン グ事業	ゼラチン 関連事業	化粧品 関連事業	皮革 関連事業	賃貸・不 動産事業	食品その 他事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	6,213	6,636	3,537	7,834	325	5,393	29,941		29,941
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6				1,129		1,136	1,136	
計	6,220	6,636	3,537	7,834	1,455	5,393	31,077	1,136	29,941
セグメント利益	706	709	641	153	743	180	3,136	1,229	1,907

(注) 1 セグメント利益の調整額の区分は報告セグメントに含まれない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。その概要は以下のとおりです。

(コラーゲン・ケージン事業)

第1四半期連結会計期間より、開業した日皮?原蛋白(唐山)有限公司を連結の範囲に含めております。これにより当第3四半期連結会計期間末の有形固定資産及び無形固定資産は、905百万円増加しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

共通支配下の取引等

(1)取引の概要

対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：当社の連結子会社である株式会社NP越谷加工の靴底加工事業

事業の内容：靴底加工事業

企業結合日

平成23年12月31日

企業結合の法的形式

株式会社NP越谷加工を譲渡会社、株式会社ニッピ・フジタを譲受会社とする事業譲渡
結合後企業の名称

株式会社ニッピ・フジタ

その他取引の概要に関する事項

当社グループは、皮革関連事業の集約を行うために、株式会社NP越谷加工の靴底加工事業を皮革関連事業の中核会社である株式会社ニッピ・フジタへ集約することにいたしました。

(2)実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	82.62円	135.40円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	932	1,527
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	932	1,527
普通株式の期中平均株式数(株)	11,283,919	11,282,689

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月14日

株式会社 ニッピ
取締役会 御中

監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 古谷 義雄

指定社員
業務執行社員 公認会計士 関端 京夫

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニッピの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニッピ及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。